

# 学習のめあてを育てる国語科指導

岩 田 俊 徳  
檀 上 健 二  
丸 本 克 巳

## 1. 国語科における「めあて」

児童に、国語科における自己教育力を育てることを目標として、昨年来言語能力を身につけさせるための教材開発、音読指導、言語事項の指導などに力を入れてきた。本年度は、これらの取り組みに加えて、自らの力で学習の「めあて」を明確にさせ、解決し、自己評価ができる力を身につけさせる取り組みを試みてきた。特に学習の「めあて」をはっきりさせることが、学習意欲を持たせるうえで大切なことであると考え、学習の「めあて」を明確にさせるための場づくりを考えてきた。

ここで言う学習の「めあて」とは、単元なり題材においてわきあがったイメージや疑問、解決しなければならないこと、解決することによって児童が達成感・成就感を味わいうるもの。「やった」「できた」と自覚できる課題と考える。こうした学習の「めあて」の範囲としては、

ア、単元あるいは、題材全体の「めあて」……その単元あるいは、教材で力とすべきもの。

イ、一時間ごとの「めあて」……単元あるいは、題材から導き出される一時間ごとの「めあて」

ウ、学習活動をすすめていくための具体的方法としての「めあて」…一時間ごとの「めあて」を解決していくための「めあて」

の三つを考えている。

こうした学習の「めあて」と「めあて」の範囲を明確にして学習にとりくみ、児童に達成感・成就感を持たせる学習に取り組むと、どんな効果が期待できるであろうか。ある児童は、自分で学習の「めあて」を考えていくことについて、次のように書いている。

「めあて」を考えることは、今までに何度もしたが、私は、この「めあて」は自分でもすばらしいと思うもの考えたことはありません。でも、文章から考え出す「めあて」は好きです。今度は、班で「めあて」を考えるそうですが、とても楽しみです。国語の授業が楽しみです。

国語の時間は、登場人物の気持ちが表われている表現に線を引き、みんなが学習の「めあて」を考えました。私は、一つの所でまどって、あまりたくさんできませんでしたが、「めあて」を考えるのが、とっても楽しかったです。みんなの考えた「めあて」の中には、本当に全文を読んで考えなければいけないむずかしい「めあて」もありました。このめあてをもとに明日から登場人物の気持ちを読みとっていく勉強です。がんばります。

学習の「めあて」をはっきり自覚させて学習に取り組むことについて児童は、一人ひとりの能力に応じた「めあて」を考え、それを解決することにより、単元や題材を自分の力で学習できたと考えると思う。このような取り組みを続けていくことにより、自ら国語を学び、国語の学習方法を身につけた子供が育っていくものと考えられる。

学習の「めあて」を児童に考えさせ、解決していく取り組みは、自己教育力という個の確立ということにつながっていく。自己教育力とは、自己を自己がきたえていく力であるにとらえると

自分で自分をきたえていくことになる。児童一人ひとりが、学習の「めあて」をはっきりつかみ自分の力で解決していくことをくり返すことにより、より高度な学習の「めあて」をつくりだすことができる。つまり、児童の言語能力をより高めていくことができるということにつながっていくであろう。

## 2. 「めあて」をつかませるために。(学習の「めあて」を明確にするための教師の立場)

学習の「めあて」を児童のものにするために、教師は、どういうことを考え、いつ場づくりをすべきであろうか。

まず考えなければならないのは、教師が、単元や題材で児童にどんな力をつけさせるかを明確に持つておく必要があることである。そのうえで児童の学習意欲をひきだすための場づくりをすることが大切となる。そのため授業に取り組ませる中で教師が考えておくべきことを、次の四点にしばってみた。

ア. 単元のねらいを教師がしっかり持って、児童に何を身につけさせるか明確にしておくこと。

イ. 国語科で大切にしなければならない言語能力を高めるための基礎的、基本的なことから大切にすることで、学習の「めあて」をつかませる場を考える。

ウ. 学習の「めあて」を集約し共通意識を持って学習に取り組ませるための方法を工夫する。

エ. 児童自身が、「やった。」「できた。」と言えるような学習の「めあて」にするために、学習活動や指導方法を工夫し、児童が自己評価しやすいように授業を構成する。

以上のことがらを教師がしっかり持って学習指導計画を考え、児童に学習の「めあて」を考えさせていく場づくりをしてみた。

学習の「めあて」を児童にはっきりと持たせるための場は、どんな場が予想されるであろうか。本校が実践してきた場は、次の通りである。

学習の「めあて」設定の場面。〈国語科として〉

### (1) 生活経験を話し合う中から、学習の「めあて」を見つけだす方法。

・自分の身の回りから題材をみつけ、取材活動に取り組みせ、これと並行して多くの例文を提示する。(表現活動での学習の「めあて」づくり)

### (2) 単元や教材を学習していく最終目標を明確にし、そこに到達するまでにどのような学習の「めあて」が考えられるかを見つけだす方法。

・カルタ作り、詩集づくりを通して、表現や、詩をどのように読ませ、何を調べてまとめあげていくかを提示する。(言語表現活動での学習の「めあて」づくり)

### (3) 単元名あるいは、題材名から考えられることを話し合い見つけだしていく方法。

・主題についての考えをまとめていくために、一時間ごとの「めあて」を決めて、一人調べをすすめていく中で解決したいこと、話し合いたいことを、教師が集約して、視点をはっきりさせる。(理解を中心とした活動での学習の「めあて」づくり)

### (4) 一読後の感想を話し合う中から、感想を類別し、学習のすすめ方を話し合い、表現に着目できるように助言を加える中から見つけだす方法。

・学習の「めあて」が予想される場面を教師があらかじめ持っていて児童に提示していく。

・児童の感想などを分類し、対立した意見を取りあげて解決しなければならないことを明示する。多くの考えの中からある程度「めあて」をしばらくこむことに注意しなければならない。ほっておくと一人ひとりがばらばらになり、学習としてのまとまりに欠ける。一つにまとめようとすると、まとめられなかった意見の者の意欲をそぐことになってしまう恐れがある。

(理解を中心とした活動での学習の「めあて」づくり)

### 3. 実践事例1 ——くらしの中から 学図3下——

#### (1) 単元について

本単元は、調べるという学習を軸とした、「表現」と「理解」の関連単元である。第3学年では、「聞いたり読んだりした内容から、文章に書く素材を見つけ出して書こうとすること」が、表現に発展させる関連事項として示されている。これを受けて単元が構成されている。

教材として、冬から春へ（説明文）、せつめいを書くには（解説文）、うちのじいちゃん（作文）の3つを取り上げている。これらの作品をもとに、日常生活から取材し、中心点のはっきりした文章構成をし、適切な表現ができることをねらっている。

指導目標は、次の通りである。

- ◎ 聞いたり読んだりした内容から、文章に書く素材を選んで書くことが出来るようにする。
- 1. 説明文をいくつかのまとまりに分け、それぞれの要点を読み取ることが出来るようにする。
- 2. 作文の取材、選材、構想のたてかたがわかるようにする。
- 3. メモをもとにして、事柄を選び整理して文章を書くことが出来るようにする。

この中で、特に重視したいことは、取材指導である。書く材料を見つけておくことは、文章を書く時に決め手となるからである。

#### (2) めあて作り

年間計画では、1月に扱うことになっているが、取材活動はそれ以前から指導しなければならない。2週間の冬季作業中には、多くの伝統的行事やそれぞれ家庭の計画がある。この期間を使い、作文の題材にあることを見つけてメモをさせようとした。身の回りのことを題材に作文を書こうと投げかけても、答えは、「書くことがない。」ということが多い。いちばん書きたいことは、一人ひとり違うのが当然だが、ここでは主題を「くらしの中から」と関連づけて、教師が正月を中心とした行事・予定に焦点をあてた。2学期の終わりに、この単元の概要を説明し、「正月調べをもとに作文を書こう」ということを投げかけた。自分の身の回りから書く材料を見つけるために取材活動に取り組みせ、これと並行して多くの例文を提示しながら、学習の「めあて」を見つけ出す方法を考えたのである。でき上がった作品の発表や文章作りをするためには、どのような学習が考えられるか話し合ってみた。取材活動では、一人ひとりが正月の行事を調べメモを書こう。したこと・見たこと・聞いたこと・調べたこと・考えたことを書こう。教科書からは、作文（説明文）の書き方を知ろう。記述段階では、メモをもとに、いちばん書きたいことを組み立てを考えて文章を書こう。などの柱ができた。

#### (3) 学習計画 (28時間扱い)

第1次	学習計画をたてる。取材活動を始める。	2時間
第2次	「冬から春へ」を読み取り、構成を知る。	12時間
第3次	せつめいの書き方を理解する。	4時間
第4次	「うちのじいちゃん」を読み、文体や組みたてを理解する。	4時間
第5次	取材メモをもとに作文を書く。	6時間

#### (4) 指導の実際

##### ① 取材

3学期の初めに、取材メモを回収した。取材メモには、取材する項目として次のようなことをあげておいた。

- ◎ 自分の町や村の正月・よその町や村の正月
- ◎ 家族やしんせきのこと（親・祖父母・兄弟姉妹・おじさん・おばさんなど）
- ◎ 正月を中心とした行事など

一枚のメモ用紙に、一つの題材について、したこと・見たこと・聞いたこと・調べたことなどを書きこめるようにしておいた。調べた方法は、実体験、本で調べる、家族に聞く、関係者に聞く、新聞・広告を集める、ラジオ・テレビを見るなどがあつた。

調べた項目は、集計すると次の通りである。

- ・正月の準備 ・大そうじ ・クリスマス ・もちつき ・かがみもち ・年越そば ・大みそか ・しめなわ ・しめかざり ・門松 ・初もうで ・破魔矢 ・初日の出 ・ぞうに ・おとそ ・お年玉 ・年賀状 ・初夢 ・年始回り ・茶会 ・書き初め ・ししまい ・七草がゆ ・出初め式
- ・正月の遊び (たこあげ, こま回し, はねつき, 百人一首, トランプ, 花札など)
- ・旅行して (大山の町, おばあちゃんちの正月, ぞうにのちがい)

よく調べた子のメモは、他の子にも参考になるので印刷して配った。図1は、その一部である。

〔図1〕

調べたこと	聞いたこと	見たこと	メモ
かがみもち	白粉の灰やしんせきにかざつてあるかがみもちを、見てまわりまわした	ぼくの家では、大みそかの夜、その家の長男が、かがみもちをよそふ。さんぼうのまわりには、ぼんぼりを三まきして、うらたけをまき、おまじないをする。おまじないのときは、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。	かがみもちの作りかたを、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。
大そうじ	大そうじのとき、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。	大そうじのとき、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。	大そうじのとき、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。おまじないの歌は、おまじないの歌をうたう。

取材は、3学期に入っても続けた。たとえば、小正月、とんど、成人の日、バレンタインデーなどである。日記や取材メモが提出されると、帰りの会で紹介した。一人のアイデアが多くの子にヒントを与えた。節分の数日前から広告を集めた子は、いわしの安売りや豆まきの由来について書いてきた。(図2)

〔図2〕

**冬から春へ**

こうこくを見て

河野里枝子

節分近くになると、節分に使う物などが、こうこくや、テレビのせんでんや、ラジオでいったりするのを、よくききます。

節分で使う物といえば、いわし、木のひらぎの葉などです。ひいらぎの葉は売ったりしないけど、こうこくの一部によると、いわしが安くなり、今まではつばいされていかなかった豆が、急に出だしました。

こうこくには書いてなかったのですが、その他、豆を入れる物とか、おにの面は、サービスにただでくれる店もあります。

植野 宏恵

「節分のこうこくはなぜ今から、せんでんするのかわからないので考えました。」

① ほかのおみせより早くせんでんして、人をたくさんよぶためのかなと思います。わけは、ほかの店に客をとられたくないのでしよう。やはり、しょうばいだからこうだと思えます。

② こうこくには、「福」とか「節分」とか「豆」とか二月三日の節分にかんけいあることばが大きな字で書いてあります。それは、ほかのせんでんより、さきに人が目をつけ、そこにかいにくからだと思えます。

② 教科書教材

指導計画の第2次から第4次までは、教科書教材による学習である。

「冬から春へ」は、節分の行事や由来について書いた説明文である。段落ごとに要点を整理しながら、説明文の組みたてを理解させる。各時間に視写を取り入れ、重要語句・中心文を見つけ、小見出しをつけていく。段落相互の関係を知り、構成を考えさせることは、作文を書く時の逆思考となる。

「せつめいを書くには」は、解説文である。既習の作文「夕食作り」と比較しながら、説明風の文章を理解させる。

「うちのおじいちゃん」は、児童の作文で、事実と感想の書き方・文末表現・組みたて・主題等をぬき出させる。文の形は、敬体と常体、現在形と過去形、推定と伝聞などの書き表し方をおさえておく。調べたことを書くには、これらの表現を使い分ける必要があるからである。

③ 組みたて・記述

自分で調べたことや人から聞いて知ったことなどから、自分が書きたいことは何か。いちばん書きたいことを、初めに決めなければならない。取材する前に決定していれば、取材はスムーズに行く。焦点づけて調べているので、取材が終われば、ほとんど組みたても完成している。しかし、そういう子は少なく、複数の項目を書こうか、それとも一つの行事をくわしく書こうかなどと迷っている。組みたては、いちばん書きたいことはなにか、項目はどれを入れるか、書く順序はどうするのか、書き出しの工夫は何がいいか、題名は何にするか、文の形は敬体か常体かなどを考えさせた。自分が調べたことを中心に、他の子の資料を加えて組みたての概略が決まると、ほとんどの子が、下書きに移った。なかなか書き出せない子は、調べた内容が少なく乏しい場合か逆に資料が多すぎて、すて去り難い場合であった。前者は、ほとんど一項目について書き、後者は盛りたくさんだがすじ道を考えて完成させた。書いていく途中で、つけ加え、削除、変更のある子がいた。組みたてと変わることが不安で聞きにきたのである。自分が書きたいことが、途中で変わるということは、考えること、考え直すこと、組みたて直してみる活動を行っていると言える。はじめ、中、終わりで組みたてをしたことが、固定的にとらえられているため、いちばん書きたいことはこのような構想にしたかどうかと考える過程をつぶしかけていたようである。でき上がりはともかく、構想する力をつけるという意味からその子たちの考えを聞き、新たな組みたてを作り記述させた。

下書きは、早くできた者同志で2人組を作り、推敲しあい訂正後清書した。

(5) 「くらしの中から」と作文

「くらしの中から」と完成した作文について、次のようなアンケートをとり、集計した。

<p>「くらしの中から」を学習して 3年 組 名前 _____ ◇次のしつもん に答えてください。自分の気持ちを表していると思う所に ○印をつけてください。</p> <p>1. 正月調べをすることは、おもしろかったですか。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> <input type="checkbox"/>と答えたわけ _____</p> <p>2. 正月調べをして自分のためになったと思いますか。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> <input type="checkbox"/>と答えたわけ _____</p> <p>3. 教科書の「くらしの中から」を学習して、作文に役立ったと思いますか。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> <input type="checkbox"/>と答えたわけ _____</p>	<p>4. 作文は思ったように書けましたか。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> <input type="checkbox"/>と答えたわけ _____</p> <p>5. 新聞作りは、おもしろかったですか。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> <input type="checkbox"/>と答えたわけ _____</p> <p>6. あなたの書いた作文について教えてください。 A. いちばん書きたいことが書けた。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> B. 書き出しのくふうができた。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> C. 調べたことを使って書けた。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span> D. 自分の考えや思いが書けた。 <span style="float: right;">5 4 3 2 1</span></p>	<p>◇くらしの中からを学習して思ったことを書いてください。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
---	--	--



- アンケートで5～1と答えたわけをまとめると次のようになる。左側が十、右側が一のわけである。

「くらしの中から」学習後の意識調査

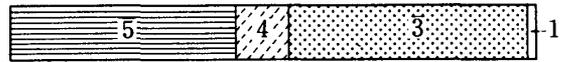
・正月調べをすることは、おもしろかったですか。

<p>＋と答えたわけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べていくと、歴史がわかった。</li> <li>・おばあちゃんが楽しく教えてくれた。</li> <li>・いろんな県の正月がわかった。</li> <li>・昔のことを聞いて、楽しかった。</li> </ul>	<p>－と答えたわけ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・のんびりしたかった。</li> <li>・めんどうくさかった。</li> </ul>
--	---



・正月調べをして、自分のためになったと思いますか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らないことを考えだし、わからない所を教えてもらった。</li> <li>・いろんなことがわかり、作文のてがかりになった。</li> <li>・人が調べたことをプリントしてもらったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖父の死でできなかった。</li> </ul>
--	---



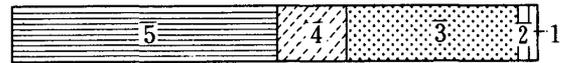
・教科書の「くらしの中から」を学習して、作文に役立ちましたか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・組みたてや段落分けがとともよくなった。</li> <li>・作文がながてだったのにととも好きになった。</li> <li>・小見出しをどういうふうにかきばいかわかった。</li> <li>・書き出しのくふうができた。</li> <li>・文の長さ、点、丸の使い方がわかった。</li> <li>・はじめ、中、終わりのやり方がわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まったく別のことを書いた。</li> <li>・自分で自由に書きたかった。</li> </ul>
--	--



・作文は思ったように書けましたか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬から春への勉強をして、どういうふうにかきばいかわかった。</li> <li>・会話を入れた。</li> <li>・一生懸命書いた。</li> <li>・作文が好き</li> <li>・ながてだったのに、うまく書けてうれしかった。</li> <li>・自分でも思ったよりよかったし、先生のはげまして自信がついた。でも、少し不安です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いっぱい書きたかったことがなかった。</li> <li>・門松などの由来を書きたかったのに、考えや思ったことが多かった。</li> </ul>
---	---

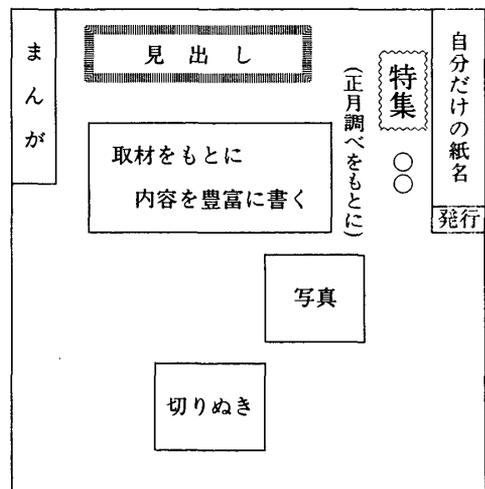


(6) 発表

作品は、文集にして保存すると学習成果が残るとともに、他の子の学習成果を知ることができる。また、できたという満足感は、次の学習意欲へとつながっていく。完成した作文の自己評価で1や2と答えた子は、自分に不足している所を学ぶことができる。多くの作品に接し自分の力を補おうとする態度は大切である。

取材していながら、作文に使わなかったことがたくさんあった。長期間一生懸命に活動したことを思うと、そのままにするのは惜しかった。文集作り以外に形として残る工夫を考えた。そこで思いついたのが、新聞作りである。作文に使用しなかったメモを生かして、説明的新聞作りを、指導計画外の時間で扱ってみた。

ぼくの・わたしの新聞作り





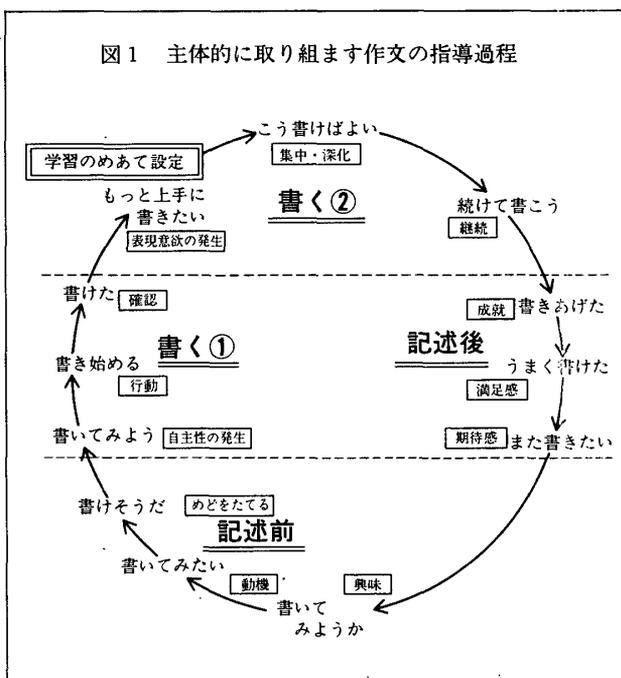
#### 4. 実践事例2 — 考えを深める 学図5年下 —

##### (1). 作文指導と学習のめあて

児童を取り巻く環境は、物が豊かにあふれ、何でも努力しないで手に入れることができる。このため、児童は、受け身の立場に立たされることが多く、自ら積極的に作り出す体験に乏しい。この傾向は、作文においても見られる。作文と聞くと、「えーっ。」という声で教室が埋まるのは、そのよい例であろう。このような児童を、いかに自ら進んで作文に取り組むようにさせるか、ということは、重要な課題である。

ここで取り上げる学習のめあてをはっきりとらえさせることは、一人ひとりの児童を主体的に学習に取り組ませるための一つの有効な手だてであると考えられる。しかし、このめあてを設定することは、めあてづくりだけを取り出して考えるべきでなく、作文指導全体の中で考えなければならない問題である。そこで、作文の指導過程を、図1のように「自主-集中-継続-成就」と続く一連の児童の意識の流れの中でとらえてみた。

この活動の中で、学習のめあて作りの場は、書く①の活動から、さらに書く②の活動へつなぐ「もっと上手に書きたい」という表現意欲をどう起こさせるかに位置づけられる。つまり、より高度な表現を目指したいという探求心や期待感を持たせ、何をここで学習しなければならないかをつかませることが、表現領域での学習のめあてづくりになる。そのためには、記述前の指導である、「書いてみようか」「書いてみたい」という学習のエネルギーを引き出させる場の設定が大変重要である。



##### (2). 単元について

本単元は、意見文「農業をやっていききたいわたし」と解説文「書くことによって考えを深める」の二つの題材から成り立っている。この二つの題材を通して、自分の周りにおこる事象に目を向けさせ、その事象を通して感じたこと考えたことを読む人によく分かるような文章に書き表すための留意点を述べている。そして、自分の考えをまとめ、深めることによって、書き手自身が人間として成長していくことをねらっている。

児童はこれまでに、班ノートなどへ自分の周りで起こる出来事についての矛盾、憤り、疑問、感想を述べている。しかし、その文章は、書くことによって自己満足を得るためのもので、読者を意識した書き方をする者は少ない。そこで、ここでは、生活文と違う意見文の書き方について学習させることにより、自分の意見を読者に効果的に伝える方法を身につけさせ、自分達の生活を向上させるための手だてとさせたい。

##### (3). 指導のねらい

- ◎ 生活を見つめ、その中でおこったできごとについて主体的に考えたり、調べたりして自分の意見をまとめ、事象と感想、意見を区別して書くことができるようにさせる。
  - ・ 自分の意見が読み手によくわかるように、論理的な文章構成を工夫することができるようにさせる。
  - ・ 指示語や接続詞、文末表現を工夫して読み手によくわかるような文章を書くことができるようにさせる。



② 書いてみようという意欲を

バレンタインデーが近づいた二月初旬、「バレンタインデーの日に学校へチョコレートを持ってくるについて」討論会を開いた。予想された通り、教室はほぼ男子と女子に二分された。そこで、席を移動させて教室を賛成派・反対派に分けて話し合うことになった。「年に一度だけのことだから大目にみてもよいのではないか」「広く社会でもチョコレートを渡すことがあたりまえの風潮になっている。だから持って来てもよいのではないか。」とする女子と、「もらえなかった者のことを考えてほしい。」「チョコレートはおかしだ。学校へおかしを持って来てもよいのか。」「校則がある。」などとする男子の意見が出される。話し合いは、たくさんの仲間がいる中で意見が言えるという安堵感から活発なものとなり。なかなか収拾がつかず、ついには「愛は自由だ。」などという感情論まで飛び出す始末である。そこで、「お互いの意見を相手に分かってもらえるよう書いてみよう。そして、一人でも自分の意見に賛成してくれる味方がふえるようにしよう。」と呼びかけ、第一次の作文に取り組ませた。

③ 自らの表現の問題点を明らかに

児童は、バレンタインデーについての自分の考えを書きあげることにより、目的達成したととらえがちである。しかし、「書いた・書けた」という低次の満足感を持たせては、表現技術の向上は望まれない。より高度な表現を目指そうと努力する姿勢を児童の心の中に育てる必要がある。そこで、価値ある例文とめぐりあわせ、自分の表現を見直す場を設定した。そして、この活動を通して、自分の表現の問題点を明らかにさせ、ここで学習したいことと、自分の文章を読んだ反省を紙に書いて提出させた。資料1は出されたものを一覧表にしたものである。

④ 学習のめあての設定 第一次 3 / 3

一授業記録一

T このプリント(資料1)は、みなさんがバレンタインデーについて書いた文章と例文とを比較して、みなさんの文章に対しての反省や学習してみたいことを書いたものです。これから、この資料をもとに、学習のめあてと、そのめあてを学習する計画を立ててみたいと思います。

一資料1を配布一

T それでは○君から順に自分の反省と、学習したいことを読んで発表してください。

一資料をもとに全員が発表する。読む中で、同じグループに分けられることを理解させる一

T みなさんの反省や学習してみたいことをまとめてみると、どんなことになるでしょうか。

C ぼくたちの文章は読みかえしてみると、よくわからなかったところがあったけど、この前、読んだ例文はよくわかる。読む人によくわかるような文章にするにはどうしたらよいか。

C みんなの文章は自分の意見を書いただけで、うたてる力がなかったように思う。

C このプリントを見ると、相手を納得させるような書き方をしたいという人が多いと思います。

T 書いて見た時はこれでよいと思っていたけれど、例文と比べて読んでみると案外自分の文章に読む人を納得させるような力がないことに気づいたようですね。みんなの意見をまとめると、読む人を納得させるような文章にするにはどうしたらよいかということになるね。みんなの学習したいことは、このめあてでいいですか。一挙手で確認・板書一

T それでは、ノートに学習のめあてを書いておきましょう。いつもこのことを意識した学習

資料1 自分の文章と例文を比べてみて

月日～月日		例文		自分の文章	
中野のい	青木 樹	山本 謙	東方 雄治	田中 十	茶谷 裕
元堂 千尋	山本 謙	山本 謙	東方 雄治	清水 忠	小田 寛大
佐々木 完治	田中 十	内 神 正 行	内 神 正 行	河野 十	田中 十
高田 和	田中 十	松尾 子	田中 十	高田 和	田中 十

をしていきましょう。学習が終わった時、納得させる文章になっているか調べてみましょう。

- T それでは、相手を納得させる文章にするには、どうすればよいか自分の予想をノートに書きましょう。—各自、自分の予想をノートに書き、発表する—
- C 自分がどんなことをいいたいのか、自分の考えをはっきりさせる。
- C この前の例文にもあったように、人から聞いたりしたことをまとめたり、自分の経験を生かして書けばよい。
- C 自分がなぜそう思うのかという理由を入れて書けばよい。
- C 人の意見をよく聞き、それに対しての自分の意見を述べたらよい。
- C 自分の立場を変えて、反対の人の立場にたって考えてみるとよい。
- C 例をたくさん出して順序よく書けばよい。
- C まとめや書き出しに自分の意見を書いて読む人によくわかるようにする。
- C 題をよびかけふうにする。
- C 「～ではないでしょうか」など、呼びかけるような文末表現にするとよいと思います。
- C どんな例を出しているか、いろいろな例文を調べてみればよいと思います。
- T だいふ方法にまで話が進みましたね。
- C ぼくは、うまい人の作文をたくさん読んで、その作文に共通しているところをみつけたらよいと思います。そして、自分で書き、読み合い、悪いところを直していくと納得させる文章になると思います。
- T 例文の中からよいところを見つけるという方法は大切なことです。いろいろな例文から、どんなことをこれから調べていったらよいかまとめてみましょう。
- C 読む人に訴えているところに線をひき、考えがどこに出ているか見つけたらよい。
- C 読む人を納得させるため、どんな例が出されているか調べてみるとよい。
- C 説明文の時は、人にわかりやすくするため問題提示などしていたので、どんな構成をしているか調べてみるとよい。

T いろいろな意見が出てきましたね。このほかにも、○さんが言ったように、文末表現の工夫や、段落と段落をつなぐ接続詞の使われ方にも注意して調べてみると意見文の書き方がよくわかると思います。

—以下略—

(6) 指導を終えて

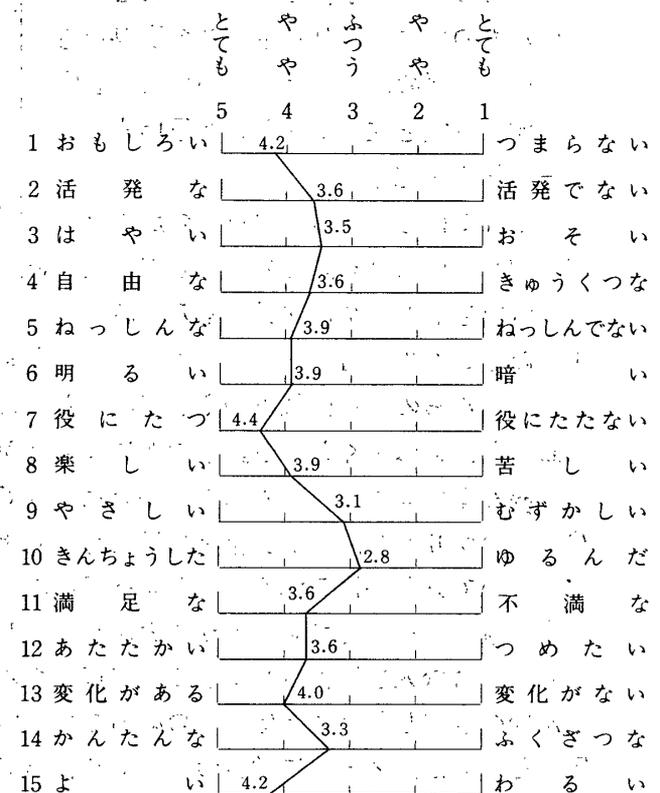
① 学習のめあて作りと児童の意識

ア 授業実施直後の調査から

表2は、授業終了後、直ちに、受けた授業の感想を五段階で記入させ、その学級の平均値を表したものである。これによると、児童はこの学習のめあて作りの授業の中で、1 おもしろい 7 役立つ 13変化がある 15全体イメージの項目において高い数値を与えている。反対に数値の低いものとして、10きんちょうしたを上げている。

このことは、児童がこの学習のめあて作

表2 学習のめあて設定授業の児童の感想



りの授業に興味を持ち、しかも、学習をすすめる上で有効な方法としてとらえたことを示している。

イ 単元をふり返っての調査から

表3は、単元の学習終了後、児童に①この学習をふり返ってやる気が出たのはどんな時ですか、②意見文を書く上で役立った活動でしたか について、単元の指導過程に従って、五段階で評価させたものである。(5に近づくほどプラスイメージ、1に近づくほどマイナスイメージを示している) これによると、学習意欲においては、バレンタインデーの話合いの後、意欲が低下している。しかし、学習のめあてを設定してからは、児童は、意欲を持って学習に取り組んでいる様子を読みとることができる。

また、それぞれの学習活動が意見文を書く上で役立ったかどうかについては、学習のめあて作りや、めあて作りのための自分の作文と例文との比較が、他の活動と比較して高い

数値を示している。このことから、学習のめあての設定は、学習意欲を高めることに有効に働き、また、児童にとっては学習を進めていくうえで役立つものであったことがわかる。

ウ 児童の感想から

学習のめあてづくりについて、児童は次のような感想を述べている。

- ・ 学習のめあてをはっきりさせておくと、次はこれ、次はこれとその時その時に考えなくてもすむから、授業がスムーズに進むのでよいと思います。 —授業の効率の面—
- ・ 学習のめあてを決めてよかったです。それは決めてなかったら、はっきりいって、何をすればよいのか、何を身につけてよいかわからなかったからです。 —学習内容の把握—
- ・ めあてをたてた時は書き方がわからなかったけど、学習のめあてをたてたら、これをがんばれば、いい文章が書けるかと思うと、がんばろうという気になった。 —学習意欲の喚起—
- ・ 学習のしかたがわかった。それに、めあてをたてると、達成した喜びを味わうことができる。 —学習方法の習得—

② 学習のめあてと指導のねらい

学習のめあて作りは、単元での指導のねらいの達成に有効に働かなければならない。表4は、意見文の学習の中で身につけなければいけない六項目について、その達成状況を、めあて設定前の第一次作文は自己評価、めあて設定後の第二次作文は、自己評価と教師評価の二面から調べた結果を表したものである。

どの項目におきも、学習のめあて設定前と設定後では、達成状況に大きな差がみられ、学習成果が顕著に表れている。しかし、この中で、相手を納得させる例を出して書くという項目に

表3 単元をふり返っての児童意識

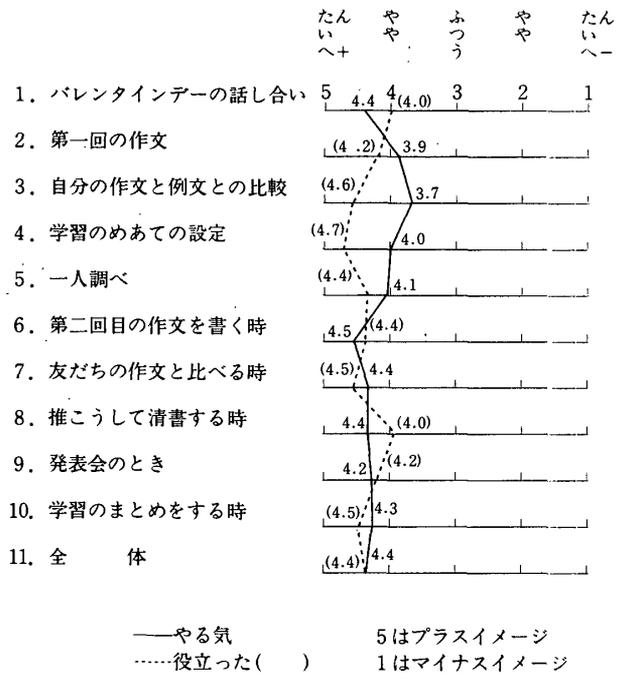


表4 児童作文の観点別達成状況 (37名中)

	自己評価						教師評価		
	第一次作文			第二次作文			第二次作文		
	○	△	×	○	△	×	○	△	×
文末表現の統一と工夫	51%	34%	15%	89%	10%	1%	86%	8%	6%
的確な接続詞の使用	11	40	49	86	10	4	92	8	0
納得する事例の提示	6	17	77	64	33	3	59	32	9
形式段階	17	26	57	83	11	6	89	8	3
自分の意見をはっきり述べているか	37	28	35	76	24	0	97	3	0
読者にうったえる構成か	3	26	71	69	29	2	92	8	0

○達成している △ある程度達成している ×達成していない







### 詩集作りをして…

ある1冊の詩の本を読んで、(ああ、この詩は、いいな。)と感じたのを、5つ写しました。私は、さわやかな感じの詩が好きなので、詩集を「朝の色」にしました。

朝の色という詩は、すごく気に入っています。短い詩だけど、なんとなくわかりやすく、心がやわらかうようです。表紙は、山の中にある小さな家。やっぱり、さわやかというの山や海などが似合うから……そうしました。

私の詩は、6つ詩を書きました。学校で作ったものもあるし、家で作ったものもある。内容は、まったくちがう。

(6つもよく書いたもんだな)と後から思ったけど、その時は、ほんとに思ったことを書いているし、窓からポプラの木を見てかいたこともあった。だから、詩は、自由にかくことができるし、それを自分だけの詩集にすることだってできた。初めての詩集で、もう作ることがないかもしれないけど、また、(作ってみようかな。)とか思ったりしたら、作って大人になって、それを見るのも楽しいかな、とか思っています。

写したりするのに、ずいぶん時間がかかったし、大変だったけど、できあがってみると(作ってよかった!)とか思いました。

### 詩集をつかって…

わたしは詩集をつくる時、なんだか、一人だけ浮いて喜んでいてのではないかと思います。なんとなくです。だって、いろいろな詩が読み味わえ、とってもおもしろいからです。

それに、わたしは今まで、図書館では、物語とかあーゆーものしか読んだことはありません。いざ、詩集を読むと本当に楽しいです。自分の詩集を作って、わたしが、たくさん用いたのは、北原白秋という詩人の方のを多くこの中に入れました。

わたしは、最初のころ、どんな詩が有名で、どんな風にやればいいのかわかりませんでした。わたしもそこは(自分の、すばらしい(?)ものにしたいナ…)と思って、伝記を読んで、その人の業績を調べたりしました。そこで、わかったのが、北原白秋という人でした。それに、少し、味わい方などが、わかりました。一番に難しかったのは、自分が詩を書くということでした。

また、いざとなると書こうと思ったことが、かけないんですヨネー。インフルエンザが最近あったから…というのでやりました。

できた時は、喜びの一しゅんというような感じがした。

② 「天下一の鎌」の学習を終えて。…自分で六時間分の「学習のめあて」を決めて、一人調べをし、主題を話し合ったあと、自分で学習のめあてを決め解決していく授業と、教師が課題を決め解決していく授業のどちらの方法が自分にとってやる気になるかと問うた反応。

ア・自分が学習のめあて、学習計画をたててする方がよい。

・文章に自分なりの方法で取り組める。(最初にこんなことをしてみなさいの助言がほしい。)

・自分で調べなければいけないと思う心がでてきて、学習していく気になった。

・自分でよくわかるし、やりやすい。 ・自分にきちんとできる。

・疑問にすぐに取り組むことができる。 ・最後まできちんとやる気になる。

・自分の力が出て、やる気がする。 ・自分自身でいろいろなことを調べられる。

・自分で考えたことが考えの通りにできる。

・自分の思いや気持ちを順々にまとめていける。

・先生が決めてやる時、自分のめあてとちがうと自分の考えた本当の気持ちが出せない。

・めあての良い悪いが、自分でよくわかる。 ・一時間にこれだけは、と思うとやる気になる。

・自分のわからないところを自由に調べていくことができる。

・自分でめあてを決め、自分で解決するので、おもしろくてやりやすかった。

・友達と違うことを、自分で解決していける。

・めあてを決めて、それにつきすすんでいく方が、自分の考えをもてるし、やりやすい。

イ・教師が課題を決めてする方がよい。

・自分でめあてを決めても、どうしても計画とちがってくるのであせってしまった。

・一つの課題だと、それについてみんながいろんな意見をだしていける。

・自分でめあてを決めてやっていく途中でわからないことがあったり、決めためあてが自

分では解決できないことがあった。

- ・途中でめんどうになったり、わからなくなったりした。

ウ どちらでもよい。

- ・自分で決めてやるのは、自分がやってみたいと思う所ができるし、先生が決めるのは先生と相談する時など、くわしく教えてもらえるから。

以上にみられるように、児童は、「学習のめあて」をはっきり持って学習することで学習に意欲的に取り組んでいけるということが明らかである。

#### (4) 題材について

幼い時から気が強かった農かじ工の子、和吉が名のある刀かじになることを夢みて父の説くことを聞かず都にのほり当代名門の刀工に弟子入りをし、人に言われぬ苦勞の末、みかどの守り刀を師にかわって打つことになる。しかし修業中も守り刀を打つ時にも心の中にあつたのは、名のある刀かじになることであり、世の中の人々の生活の安定や幸福を願う心には、自分から目をつむってしまつてつた。こうした考えをつらぬいたために打ちあがつた献上の太刀に自分の身も心も命までも打ちこんでしまうことになる。このことが間違つてつると気づくのは、師行光のことば「…心を失つておる。」「…他にまさる心を持って打て……天下一を望んでつるとは申さなかつた、……。」以後のことになる。厳しい修業に耐えられたのは、和吉の心の中に名のある刀工になるという強い志があつたことは間違いないが、それにプラスして人々の幸福を願う心も持たねばならぬと作者は言いたいのである。このことをしっかり文章に促して読み取らせなければ、この物語を読む意味はないと思う。

#### (5) 指導のねらい

◎「天下一の鎌」を読んで名のある刀工になろうとした主人公が、献上太刀を打ち終わった次の朝、門を出奔し、父の言葉の意味を理解し無名の農かじとして生きていくことになるまでの心情に共鳴し、豊かな心情を養うようにさせる。

- ・主人公和吉のかじの仕事に対する考え方と、父や師の考え方とを対比して考えさせることにより、人の生き方、人間の幸福とは何かを考えることができるようにする。
- ・作者がこの物語を通じてうたつたえかつたことを本文の表現に注意して読むことができるようにする。

#### (6) 学習のめあてをはっきりさせる手だてと指導の実際

① 第一時間目で全文を通読して一次感想文を書く。範読・黙読の後心に残つたことを中心に一次感想を書かせる。書かれた感想文の主な内容は、次の通りである。

- ・七年間の苦勞がやつとかなない刀を打ち終わった日、和吉は弟子をやめてしまつます。そして世の中のためにそのうでをつくすのでした。でもこのことは、和吉のためになつたと思つます。
- ・和吉の心を読みとつた行光、期待しすぎてありのままに表現できなかつたのかも…ひそかに喜んでつたというのに、和吉にはその心を読みとれなかつたのだ。
- ・和吉は、途中でよくぞ目が覚めたと思つ。父の言葉の意味をよく理解した。京の近くのすばらしい農かじとは、行光の弟子をやめた和吉ではないかと思つ。
- ・和吉の気の強さには負けました。父の気持ちがわかつてもそのことに少しも目を向けようとはしなかつた。自分が家を出る時から自分の意志をしっかりとつてつた。
- ・和吉は粟田口行光のやしきを出たあときつと父と同じように、くわ鎌など人の命を支えるものをつくろうと決心したのだと思つます。行光もいい人だなあと思つました。和吉をほめたい気持ちをおさえて殺気をこめた太刀をうつてはいけなつと教えたから、和吉が農かじになつた



戦国時代	
一五二〇	...
一五二一	...
一五二二	...
一五二三	...
一五二四	...
一五二五	...

戦国時代	
一五二一	...
一五二二	...
一五二三	...
一五二四	...
一五二五	...

戦国時代	
一五二一	...
一五二二	...
一五二三	...
一五二四	...
一五二五	...

第六時限 「鎌工と刀工の仕事の意義」について  
 鎌工と刀工の仕事の意義について、戦国時代と  
 江戸時代とを比較して、その変化を考察する。鎌工は  
 戦国時代から江戸時代にかけて、その役割が徐々に  
 弱くなっていく一方で、刀工の地位はますます高ま  
 るようになる。これは、戦国時代から江戸時代へと  
 時代が変化する中で、武器の需要が減少し、美術工  
 品の需要が増えるようになったことと関係している。  
 また、刀工の技術が高度化し、個性が現れるようにな  
 ったことも、刀工の地位を高めた要因の一つである。

第二次 徳川幕府の成立と戦国時代の終結  
 徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を意味する。徳川家康は、戦国時代の群雄割拠を統一し、徳川幕府を築いた。この幕府は、戦国時代の戦乱を終わらせ、長らくの平和を維持した。徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を告げる重要な出来事である。

第三次 徳川幕府の成立と戦国時代の終結  
 徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を意味する。徳川家康は、戦国時代の群雄割拠を統一し、徳川幕府を築いた。この幕府は、戦国時代の戦乱を終わらせ、長らくの平和を維持した。徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を告げる重要な出来事である。

第四次 徳川幕府の成立と戦国時代の終結  
 徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を意味する。徳川家康は、戦国時代の群雄割拠を統一し、徳川幕府を築いた。この幕府は、戦国時代の戦乱を終わらせ、長らくの平和を維持した。徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を告げる重要な出来事である。

第五次 徳川幕府の成立と戦国時代の終結  
 徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を意味する。徳川家康は、戦国時代の群雄割拠を統一し、徳川幕府を築いた。この幕府は、戦国時代の戦乱を終わらせ、長らくの平和を維持した。徳川幕府の成立は、戦国時代の終結を告げる重要な出来事である。

